

令和6年度

徳島市津田中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○つながりを大切にし、認め合い、学び合い、高め合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
瀧本 由美子	校長:川中 善暢 教頭:谷 陽子 教務主任:日野 智代 1年主任:上野 絵理 2年主任:横手 誉之 3年主任:近藤 卓

校長

川中 善暢

【各校の取組状況の把握について】

教員間の相互授業参観や、学校評価アンケートの結果から、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業において、意欲的に学習に取り組むことができる生徒が多く、挙手や発表にも積極的である。方法や手順がわかる内容には一生懸命取り組める。 ●粘り強く繰り返し学習することが苦手な生徒が多い。そのため理解を深めることができず、基礎的・基本的な内容が定着していない生徒もみられる。	・授業と家庭学習を大切にし、各教科の基礎的・基本的な内容の習得に意欲的に取り組むことができる。	・学習のめあてを毎時間明示する ・ICTの活用、発問の工夫をし、わかる授業を実践する。 ・授業中に小テストなどを実施し、生徒の理解の程度を確認する。 ・学年や教科に関係なく、教員間で相互に授業参観を行う期間を設定する。	・特になし	・めあての明示やICTの活用は多くの授業で行われていた。学校アンケートでは「学校の授業がわかる」とした生徒は86.9%であった。 ・相互授業参観の期間は設定できなかったが、研修の一環として、人権や教科で取り組めた。	・各教科において、授業内容の習得状況を確認する小テストや提出物チェックを実施しているが、習熟の差がある単元においては小テストの内容を段階的に変える等の工夫をし、全員が意欲を持って取り組めるようにしたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師やクラスメイトなど、他の人の話や意見をきちんと聞くことができる生徒が多い。 ●自分の考えをまとめたり、複数の意見から新しい考えを創造したりすることに課題があり、筋道を立てて説明・表現することが苦手な生徒が多くみられる。	・読む・書く・発表する活動や、話し合い活動に意欲的に取り組み、自分の考えをまとめたり、人に伝えたりできる。また人の意見を取り入れ自分の考えを深めることができる。	・授業の中にペアやグループでの話し合いや教え合いの場面を設定し、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞いたりする機会を積極的につくる。 ・意見をまとめやすくするためにホワイトボード等を活用した話し合い活動をさせる。	・特になし	・各教員が、授業の中にペア学習やグループ学習の機会を積極的に取り入れ、話し合いや教え合いの場面を設けた。学校アンケートでは「先生は授業の中で疑問や意見を率直に出せる場を設定している。」に対して、肯定的な回答が88.4%であった。	・各教科において、さらなる言語能力の育成が望まれる。発表の機会を設けるなどして、多くの人の前でも自分の意見が伝えられる表現力を養ったり、グループ学習においても人の意見を聞いて自分の考えと合わせて深められる力を身につけさせたりしていきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自主勉強ノートの使用は定着しており、家庭学習率は高い。また、チャイム前着席の習慣が身につけてきており、落ち着いた態度で授業に取り組むことができている。 ●自分で課題を設定するのが苦手で、自主勉強ノートの使い方や家庭学習の方法が形式化・非効率化し、学力向上に繋がっていない生徒がいる。	・学習状況を振り返って自らの課題を把握し、自分の学習方法を確立することができる。 ・チャイム前に自主的に着席し、前時の復習や本時の予習など自ら課題を見つけて取り組むことができる。	・タブレットを効果的に活用して個に応じた学習課題を設定するなど、宿題や課題の出し方を工夫することで確実に取り組めるような内容にする。また適宜、自主勉強ノートの使用方法や家庭学習の方法を指導する。	・特になし	・家庭学習の習慣化を目指し、「家庭学習の手引き」を作成した。 ・Meta-Mojiを利用して、授業やテストの振り返りが家庭でもできるように工夫した。 ・学校アンケートの結果では「家庭学習の方法を身に付けている」とした生徒が71.9%であった。	・授業内容の復習が十分でなく、理解が不十分に終わっていることが考えられるため、家庭での学習時間を確保することの指導や、学習内容をリスト化して具体的に提示するなどの改善をしていきたい。 ・学習者用のデジタル教科書の活用などにも意欲的に取り組んでいきたい。

令和6年度 学力向上ロードマップ

